

in 第2回全国オンライン

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは
—デジタルウェルビーイングな社会を目指して—

開催報告書

2023年10月8日(日)12:30—16:30

【会場】：オンライン (Zoom)

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2023年10月12日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2023 in 第 2 回全国オンライン開催概要.....	4
4. 主担当.....	6
5. 高校生 ICT Conference 2023 サミット.....	7
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	7
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	7

1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2023 テーマ： 今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー
主催：	高校生 ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会
共催：	こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発綜研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、グリー株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>新型コロナウイルスで揺れ動いた社会は、ようやく各種の行動制限はなくなりましたが、未だ感染リスクは存在するため、本来密であるはずの高校生の生活環境においても、人と人が直に接するリスクを未だ抱えている状況です。</p> <p>一方、高校生の ICT 利用環境に目を向けると、スマホに加え、一人一台学習端末の導入（いわゆる GIGA スクール構想）により、機能のすぐれたタブレットやパソコンの個人専有が普及しました。さらに自然言語による生成 AI 技術等の目覚まし</p>

	<p>い進歩と実用化に向けた取組により、多様なシーンで AI 技術が利用されるようになりました。こうした社会環境の変化や情報技術の進歩を背景としたデジタル社会を迎え、今後、益々利用者自身の情報リテラシーや情報モラルが求められるようになってきています。</p> <p>ICT の健全な利用により利用者のデジタルウェルビーイングな状況を維持する社会環境の構築に向けた取り組みは我が国が目指しているところであり、それを支えるのが利用者の情報技術を利用する上での行動規範であるデジタルシティズンシップです。これから迎えるデジタル社会においてその中核をなすであろう現在の高校生が、現在そして将来果たすべき役割とは何か。多様な ICT 機器やサービス、新たに開発される技術の活用において、ICT 利用の最先端を走る高校生が、自身の役割について、斬新な指針とその実現方法を議論し、提言する。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まりました。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められています。</p> <p>更に、国は 2021 年 9 月 1 日にデジタル庁を新設し、2022 年 6 月 7 日に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において”誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化”を目指しています。高校生を取り巻く環境では、2022 年度より「情報」の授業が必修化されました。また、2025 年度からは共通テストで「情報」を加えた 6 教科 8 科目を課すことが決まっています。このように、ICT の利活用はわが国発展のための基盤と位置付けられており、これからのデジタル社会で中核を担う高校生による熱い議論を目指します。</p>
<p>開催の概要：</p>	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3)アイスブレイク (4)熟議 (5)グループ発表 (6) 講評 (7)サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換</p>
<p>各開催地 募集人員等：</p>	<p>募集参加生徒 30 名 (各開催地により変動あり) 募集見学者各回 30 名 (各開催地により変動あり)</p>
<p>参加参観方法：</p>	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
<p>高校生 ICT Conference 実行委員会：</p>	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長) <p>【コアメンバー】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） • 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） • 小城 英子（聖心女子大学） • 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目 4 番 5 号 ニュー新富ビル 4 階 TEL: 03-6280-4901</p>
--	--

2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	9月16日	u-cala
帯広	10月1日	とかちプラザ
茨城	8月23日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	10月1日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月17日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
静岡	9月18日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
愛知	9月24日	大同大学大同高等学校
長野	10月14日	オンライン
石川	9月18日	金沢勤労者プラザ
大阪	9月17日	私学会館
兵庫	9月9日	兵庫県立姫路東高等学校
高知	9月10日	高知県立伊野商業高等学校
福岡	9月2日	福岡県千代合同庁舎
大分	7月29日	ホルトホール大分会議室
長崎	8月19日	オンライン
全国オンライン1	8月7日	オンライン
全国オンライン2	10月8日	オンライン
サミット	11月3日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス

3. 高校生 ICT Conference 2023 in 第2回全国オンライン開催概要

概要	高校生、教員、企業関係者など32名の参加者を得て、今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは「デジタルウェルビーイングな社会を目指して」を
----	---

テーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。

【熟議】

司会進行・主旨説明 米田謙三 様

高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。特に今年はオンライン開催が 2 回ということになったのことも含めて主旨などを説明してもらいました。

開会の挨拶

今回の開催にあたり、参加校の決定が遅れたことから、通常行っている来賓挨拶及び事業者による講演が行われないことについて事務局から説明があった。

アイスブレイク、 自己紹介

2 つのグループに分かれ、アイスブレイクの後、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

第二部：熟議

「今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは—デジタルウェルビーイングな社会を目指して—」

ブレイクアウトルームで 2 つのグループに分かれ大学生がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。まずは『目的と利用シーンから見た、いろいろな ICT 機器の役割』そして『安心安全な活用とは何か（個人情報、防災、防犯）』『ICT の快適な社会的活用』というテーマで意見交換をしながら最終的に『高校生が社会に果たせる役割とは何か（行動、発信、影響力）』を Google スライドを活用しながら意見を整理分類しまとめて行きました。具体的な使い方については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。

今回の全国オンラインの熟議で大切にしたいポイント

『目的と利用シーンから見た、いろいろな ICT 機器の役割』

『安心安全な活用とは何か（個人情報、防災、防犯）』

『ICT の快適な社会的活用』

『高校生が社会に果たせる役割とは何か（行動、発信、影響力）』

（詳細は別紙「発表資料」をご参照）

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフト（Google スライド）を活用して 3 分の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

	<p>講評：大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田謙三 様</p> <p>明日開催予定の奈良が中止となり、奈良、大阪、福岡からオンラインで参加いただきました。大学生のファシリテーターのもと驚くほど積極的に熟議に参加いただき、にいろいろな意見がここまで出てきて大変良かったと思います。また今回話し合った事を、学校や地域に戻っても話しあってほしいと思います。また次年度以降も参加して欲しいと思います。最後に引用「デジタルシティズンシップ」が大切になってきます。1. デジタルリテラシーと2. デジタルシビリティ（オンライン上での礼儀）を大事に」を紹介し未来を創る担い手にエールを送って終わりました。</p> <p>その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、早稲田摂陵高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p>
参加校：	<p>帝塚山高等学校 早稲田摂陵高等学校 福岡県立東鷹高等学校 奈良県立香芝高等学校</p> <p style="text-align: center;">（順不同）</p>
日時：	2023年10月8日（日）12：30－16：30
場所：	オンライン（Zoom）
参加人数：	<p>熟議参加生徒 9人 見学者・関係者 9人（教員・教育関係者・その他） 合計： 18人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【グループ名：1】5名 帝塚山高等学校1年男子、帝塚山高等学校1年女子、帝塚山高等学校2年女子、福岡県立東鷹高等学校3年女子、奈良県立香芝高等学校2年男子 〔ファシリテーター〕 関西学院大学 橋田喜乃、柳元陽夏</p> <p>【グループ名：2】4名 帝塚山高等学校1年男子、帝塚山高等学校2年女子、早稲田摂陵高等学校2年女子、福岡県立東鷹高等学校3年男子 〔ファシリテーター〕 佐世保工業高等専門学校 山領悠太</p> <p>【サポートファシリテータ】 慶応義塾大学 花岡吟音</p>

4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
---------------------	-----

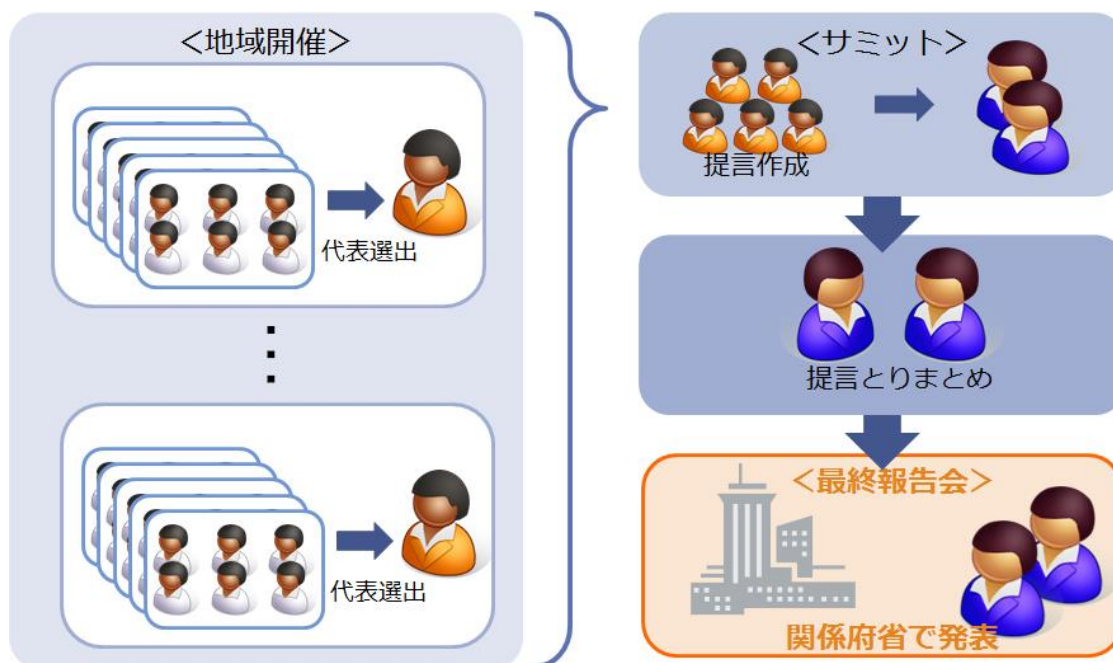
5. 高校生 ICT Conference 2023 サミット

高校生 ICT Conference 2023 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2023 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏む。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2023 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2023 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上